ご利用案内

行橋赤レンガ館（旧百三十銀行行橋支店）は、ギャラリーとして展示会などにご利用いただけます。

■開館時間と休館日

開館時間　午前10時から午後6時

休　館　日　火曜日

※その日が「国民の祝日に関する法律」に規定する休日に当たるときは、その次の平日

※8月15日と12月28日から翌年1月4日まで

■入館料

建物の観覧は無料です。

■施設使用料

利用者 ＼ 使用区間		10時～13時	13時～18時
市内居住者		830円	1,400円
市外居住者		1,230円	2,100円
入場料を徴取または物品販売を行う場合	市内居住者	1,660円	2,800円
	市外居住者	2,460円	4,200円

備考

(1) 使用時間が1区間に満たない場合でも、当区間の金額となります。

(2) 使用区間が2区間以上にわたる場合は、各区間の合計額となります。

(3) 使用時間は、準備及び後片付けに要する時間を含みます。

■使用申し込み方法

使用の申し込みは使用日の6ヶ月前の月の最初の開館日から受け付けます。

申請者が直接ご来館のうえ、使用許可申請書を提出して下さい。

■駐車場

駐車場はリブリオ行橋駐車場をご利用下さい。

駐車券を赤レンガ館またはリブリオ行橋内の認証機に通すと、３時間まで無料となります。認証機に通さずに出庫すると割引が適用されませんのでご注意ください。

時間区分			
7時～20時		20時～7時	
60分	100円	60分	100円
		最大	500円

It is a graceful red brick building built in 1914 under supervision of Kingo Tatsuno who was famous for the design of Tokyo Station, the headquarters of the Bank of Japan and others. In addition to the building with the taste of the period which is referred to as "Taisho Roman", you can see exhibitions of paintings and craftworks in the "Yukuhashi Akarenga Gallery" .

Opening hours：10:00 - 18:00
Closed days：Tuesdays, August 15 and year-end through New Year holidays
Address：3-7-14, Ohashi,Yukuhashi-City,824-0003　Tel：0930-23-7724

旧百三十銀行行橋支店へのルート

■ お問い合わせ ■

旧百三十銀行行橋支店
（行橋赤レンガ館）

休館：火曜日・8/15・12/28～翌年1/4

〒824-0003 福岡県行橋市大橋三丁目7番14号
TEL・FAX 0930-23-7724

◀ ゆかし、ゆくはし。
—行橋市の歴史と文化財—

◀ 旧百三十銀行行橋支店
催し情報

2026.1 第5版

福岡県指定文化財

きゅう ひゃく さん じゅう ぎん こう ゆく はし し てん

旧百三十銀行行橋支店
（行橋赤レンガ館）

Former 130 Bank Yukuhashi Branch
(Yukuhashi Akarenga Gallery)

指定種別	県指定有形文化財（建造物）
名称及び員数	旧百三十銀行行橋支店　一棟 附 棟札一枚　門 一棟　敷石 二八枚
指定年月日	平成15年2月5日
所在地	行橋市大橋三丁目7番14号
建築面積	145.42㎡
構造	煉瓦造二階建（内部吹き抜け） 金庫室附属

行橋市教育委員会

旧百三十銀行行橋支店への招待

「旧百三十銀行行橋支店」（愛称：行橋赤レンガ館）は大正３年（1914）に建てられた市内でも数少ない大正期の洋風建築です。

元行橋商工会議所会頭、平知信行（ひらちのぶゆき）さんの寄付金で市が土地と建物を買い上げ、平成 13 年度に改修工事を行い大正時代の姿に復元しました。

この建物は、主屋と金庫室からなり、以前は西側に木造二階建ての付属屋がありました。主屋は煉瓦（れんが）造で、外壁に見える柱や窓回りは石造風に仕上げられ、寄棟の屋根の四方にはドーマー（屋根窓）を配しています。

外観の基調はルネサンス風ながら、セセッション※の幾何学（きかがく）的な装飾がモダンな印象を与え、小規模ながら洗練されたデザインの魅力的な建物となっています。外からは二階建てに見えますが、内部は吹き抜けで、銀行らしい堂々とした室内空間が広がります。室内にも幾何学的な意匠（いしょう）が用いられ、天井は美しい漆喰（しっくい）装飾で飾られています。建築当初はカウンターが西壁まで伸びて客溜（だま）りと営業室が分けられていました。東南隅にある応接室の間仕切りは建築当初のものです。二階部分を巡るギャラリー（歩廊）と螺旋（らせん）階段は、建築当初の設計図にもとづいて復元しました。ギャラリーの下の鉄骨は耐震性を高めるため新設したものです。

旧百三十銀行行橋支店は当時の設計図や棟札（むなふだ）が残され、設計図や施工者が明確であり、大正初期の建築様式を今に伝える貴重な文化財です。

※セセッション（ゼツェシオン）：19 世紀末から 20 世紀初頭にドイツ・オーストリアで興った芸術革新運動。建築においては幾何学的な意匠を多用する。

外観

パラペットと柱頭部の装飾

バルコニーの装飾

館内

天井の漆喰装飾

百三十銀行行橋支店の図面

大正３年竣工時の写真

表

裏

百三十銀行行橋支店の棟札（むなふだ）

棟札とは建物の棟上げに際して、建築の記念と安全祈願などのために祈願文・年月日・願主（がんしゅ）・大工などを記して棟（むね）に打ちつける札です。旧百三十銀行の棟札には、棟上げの日・設計者・監督者・現場関係者の氏名などが記されており、この建物の設計をしたのが清水組（現 清水建設）本店技術部であったことがわかりました。

百三十銀行行橋支店と建築家 辰野金吾（たつのきんご）

棟札に監督者として記される辰野片岡事務所の辰野とは、辰野金吾（1854～1919）のことです。辰野は肥前（ひぜん）唐津の出身。工部大学校（現 東京大学工学部）でＪ．コンドルに学び、日本銀行本店、東京駅など数々の名建築を残しました。

明治・大正期のわが国建築界の開拓者で指導者でもあった著名な建築家がこの百三十銀行の建設に携わっていたのです。

辰野金吾 肖像
（唐津市教育委員会 所蔵）

旧百三十銀行行橋支店の変遷

旧百三十銀行行橋支店は明治11年に大橋村に開業した第八十七国立銀行を前身とする銀行で、大正 3 年に現在地に移りました。この建物は行橋の近代化の歩みを語る歴史遺産です。

明治11年（1878） 12月5日
第八十七国立銀行が県下４行の国立銀行の一つとして仲津郡大橋村に開業。
（頭取　柏木 黙二）

明治13年（1880） 11月
小倉船場町に第八十七国立銀行小倉支店開業。

明治20年（1887） 1月1日
第八十七国立銀行本店を小倉へ移し、大橋店を支店とする。
（店舗はこの時大橋から行事へ移転した）

明治22年（1889） 4月1日
大橋村・行事村・宮市村が合併し行橋町となる。

明治30年（1897） 7月1日
第八十七国立銀行が、株式会社八十七銀行となる。

明治35年（1902） 12月1日
㈱八十七銀行が、㈱百三十銀行に吸収合併される。
〔百三十銀行：本店 大阪市、頭取 松本 重太郎（後の豊州鉄道社長）〕
これにともない、㈱八十七銀行行橋支店は㈱百三十銀行行橋支店となる。

大正３年（1914） 11月
百三十銀行行橋支店の新店舗が現在地に竣工。

大正12年（1923） 11月1日
百三十銀行が安田銀行となり、これにともない安田銀行行橋支店となる。

昭和９年（1934） 8月11日
安田銀行行橋支店が十七銀行行橋支店となる。

昭和20年（1945） 4月1日
十七銀行行橋支店から福岡銀行行橋支店となる。

昭和41年（1966） 1月25日
行橋京都信用組合本店となる。

昭和47年（1972） 6月20日
北九州中央信用組合と行橋京都信用組合が合併。北九州信用組合となる。

平成９年（1997） 11月17日
北九州信用組合が解散する。

平成10年（1998） 10月
整理回収銀行から土地と建物を行橋市が買収。

平成12年（2000） 1月5日
旧百三十銀行行橋支店を市の有形文化財（建造物）に指定。

平成13年（2001） 11月～平成14年（2002）3月
旧百三十銀行行橋支店改修工事。

平成14年（2002） 7月
旧百三十銀行行橋支店が市民ギャラリー「行橋赤レンガ館」として開館。

平成15年（2003） 2月5日
旧百三十銀行行橋支店が福岡県の有形文化財に指定される。

令和３年（2021） 7月
指定管理によるカフェ営業開始。

第八十七国立銀行が発行した紙幣（一円券）